



小郡官衙遺跡群

### 国指定史跡

## 小郡官衙遺跡

宝満川の西台地に広がる小郡官衙遺跡(おごおりかんが いせき)は、7世紀末から8世紀前半(今から1300年前)につくられた筑後国御原郡(ちくごこくみはらぐん)の役所のあとです。発見されたのは1967年のことで、溝の中から数百本もの鉄製の矢じりが出土しました。東に2.1kmに位置する上岩田遺跡から役所がこの地に移転し、その後、さらに大刀洗町下高橋官衙遺跡(しもたかかはしかんが いせき)に移ることが明らかとなっています。

この遺跡は、建物の向きから大きく三つの時期に分けられます。

中心となる7世紀末から8世紀前半の第2期には、溝に囲まれた一辺240mの区画の中に建物がありました。役所の政務を行う「庁舎」、役人の宿舎である「官舎」、税として取り立てた米を蓄える「倉庫」の3種類の機能を持つ建物が、計画的に配置されていました。

続く8世紀中頃からの第3期になると、建物の配置が大きく変化し、軸が真北にそろえられます。築地塙と2本の溝で囲まれた南北180m、東西120mの広い区画が見つっていますが、同時期の建物は区画の外側にあり、何に使われた区画なのかはまだ分かっていません。

小郡官衙遺跡は、古代の役所の典型的な構造を知るうえで高い価値があるとして、国指定史跡になっています。

小郡

### 国指定史跡



小郡官衙遺跡群

## 上岩田遺跡

上岩田

上岩田遺跡(かみいわたいせき)は、7世紀後半ごろ(今から1350年前)の役所のあとです。工業団地造成の際に発掘調査が行われ、その歴史的価値の高さから、2000年に国指定史跡となりました。

東西約18m、南北約15mの大きさに土を盛り、つき固めた基壇があり、その上には瓦葺きの建物が建っていました。これは寺院の金堂と考えられ、九州では最古級のもです。さらに柵や門に囲まれた同じ敷地内には、真北方向の大型の掘立柱建物群(ほったてばしらたてものぐん)が並んでいます。

調査から、寺院とこの大型建物群が一体となって役所を構成していたとみられ、信仰を利用して中央政権が地方の統治を進めたことを示す非常に貴重な史跡だと考えられます。その後、西2.1kmに位置する小郡官衙遺跡に役所が移転することがわかっています。

なお、頑丈な基壇にたくさんの地割れがあり、周辺には古瓦が散乱していました。瓦葺き建物と多くの建物は地震のために倒壊したと推測されます。この地震は「日本書紀」にある678年の「筑紫国地震(つくしこくじしん)」とする説が有力です。

### 市指定有形文化財

## 大中臣神社楼門



「將軍藤」で有名な大中臣神社(おおなかとみじんじや)にある楼門です。三間一戸の入母屋造りで屋根は瓦葺きです。虹梁には牡丹と菊の彫刻が施され、隅柱の上には動物を模した木鼻がついています。現存する楼門は天保年間に再建されたものですが、すでに江戸時代前期には茅葺きの楼門があったことがわかっています。

福童

## 御勢大靈石神社

大保

御勢大靈石神社(みせたいれいせきじんじや)は「延喜式内社筑後四社」のひとつで、主祭神は第14代仲哀天皇です。伝承によると仲哀天皇は熊襲征伐にあたり、行宮をここに設けましたが、敵の毒矢に当たりこの地で亡くなったと言われています。その後、妻である神功皇后は、石に仲哀天皇の御鎧・兜を着せて軍船に乗せ、朝鮮へ兵を送り、凱旋後はその石を大保へまつたと伝えられています。今、社前にある石がこれです。御勢大靈石といわれています。

### 有県指定文化財

## 木造如意輪観音立像

如意輪寺は、奈良時代に僧行基が創建したと伝えられています。本尊の如意輪観音(にょいりんかんの)像は檜材の一木造りで、立ち姿でつくられています。一般に如意輪観音は座った姿であらわされるものであり、立像というのは全国でも非常に珍しいものです。製作時期は平安時代末と想定されています。十二年に一度、巳年に開帳され、「意の如くなる」、つまり思いがかなう観音様としてあつい信仰を集めています。

横隈



市指定  
有形文化財



旧松崎旅籠油屋

松崎

松崎宿に現存する「油屋(あぶらや)」は江戸時代後期に建てられ、今も江戸時代の旅籠(はたご)建築の姿を残しています。大きく、「主屋」(通称:油屋)と「座敷」(通称:中油屋)からなり、「主屋」には一般の旅人客を、「座敷」には武士などの身分の高い貴客を泊めたと考えられています。旅籠建築としては非常に大型で、松崎宿のなかでも大名を泊める本陣・脇本陣に次ぐ扱いを受けていたと考えられています。西郷隆盛が宿泊したという言い伝えが残っているほか、乃木希典が昼食をとったことがその日記から明らかになっています。

2015年3月には、座敷の復原工事が完了し、公開しています。同年8月から、主屋の解体・復原工事が進められています。

市指定  
有形文化財



乙隈

筑後・筑前国境石

「従是南筑後国(これよりみなみちくごこく)」「従是北筑前国(これよりきたちくぜんこく)」銘を持つ国境石は旧薩摩街道に面して今もその威容を誇ります。筑後の久留米藩と筑前の福岡藩の国境に建てられています。筑後国の境石は「小郡市乙隈字境石」、筑前国の境石は「筑紫野市大字西小田字筑前島」という住所で、江戸時代の国境は今も小郡市と筑紫野市の境界として踏襲されています。

名馬池月の塚



八坂

伝承によると、鎌倉時代の武将である佐々木高綱は、名馬「池月(いけづき)」に乗って領地をまわり、子の利綱も「池月」をわが子のように大切にしました。領民たちも、領主の名馬「池月」をこの上もなく愛し、領地を駆けめぐる「池月」を仏の化身として信仰しました。名馬「池月」が倒れると、その遺体をこの塚に葬ったといわれ、「名馬池月の塚」として今も大切にされています。

「高松凌雲先生誕生の地」碑



天保7(1836)年、古飯の庄屋高松家の三男として生まれた高松凌雲(たかまつりょううん)は、24歳の時に医学の道を志します。慶応2(1866)年には、15代將軍徳川慶喜の奥詰医師を命ぜられ、翌年、パリ万国博覧会に派遣された幕府使節団に随行し、パリの病院で医学を学びました。箱館戦争の時には、病院頭取として敵味方の別なく、傷ついた兵たちの治療にあたりました。明治12(1879)年には医師仲間と「同愛社」を設立し、貧民施療に努めました。凌雲の生家には、碑が建てられ、業績をたたえています。

古飯

三国境石

希みが丘

三国とは、筑後国(小郡市)、筑前国(筑紫野市)、肥前国(佐賀県三養基郡基山町)のことで、江戸時代の文化年間(この三国の境界点に建てられたのが「三国境石(さんごくさかいいし)」)です。境石は高さ127cm(約4尺)、直径28cm(約1尺)の円柱で、三方に「三国境石」と刻まれています。江戸時代はこの付近は三国坂と呼ばれた険しい峠だったそうで、その峠に立っていました。現在の麻生学園小学校の敷地内にあります。



古代体験館おごおり  
(市埋蔵文化財調査センター)

三沢

市内の遺跡から出土した資料の整理・収蔵を行い、また、展示室や研修室、体験学習室ではさまざまなイベントを企画しています。「文化財を活かす」「文化財を広める」「文化財を守る」の3つの柱をもとに活動しています。



HP: <http://www.kodaitaiken-ogori.jp/>